

1. 2007年度石本基金若手研究助成結果報告
2. 石本基金出版助成について

1. 2007年度 石本基金若手研究助成 結果報告

「若手研究助成」作業部会長 岡本賢吾

2007年度の「石本基金 若手研究助成」審査結果は、以下のようになりましたのでご報告いたします。

審査員 岡本賢吾（作業部会長） 金子洋之 出口康夫 戸田山和久

審査結果 全10件の応募のうち、以下の3件を採用、1件を次点とした。

採用者及び研究題目

森元良太

「進化論における確率概念の哲学的基礎付け」

荒磯敏文

「量化表現を用いた指示という概念を言語哲学の研究対象とするための理論的研究」

金田明子

「真理概念とその病理性的の研究——意味論的アプローチと文脈鋭敏性アプローチの比較を通して」

次点 吉満昭宏「関連論理の存在論的基礎」

助成金額 1名につき35万円（期間：2007年4月－2009年3月）

審査経過

荒磯氏の研究計画は、構文論上は量化表現であるものが、意味論的には指示の働きを行うと解される現象が自然言語において観察されるという事情に着目し、特に、こうした現象がそのつどの言語使用において生じる一回限りのものではなく、談話の一般的構造に基盤を持つものであることを明らかにしようとする。こうした主題の設定は、独自の着想に基づくものと高く評価された。

金田氏の研究計画は、真理述語をめぐるパラドックスについての分析という、それ自体はオーソドックスなものであるが、しかし従来まったく対照的なものと見られてきた「意味論的アプローチ」と「文脈鋭敏性アプローチ」の双方を視野におさめ、踏み込んだ比較を行おうとしており、また論理的なテクニカルな問題についても、確かな素養と興味ある見通しを備えている点が高い評価を得た。

森元氏の研究計画は、進化論の哲学的考察を主題とするが、特に進化論の数理モデルにおいて不可欠に登場する確率概念を主題化し、統計力学や情報理論を踏まえた科学的考察を行いながら概念分析を進めようとしている点、さらにこうした研究が、進化論が実在論的なのか、決定論的なのかという重要な哲学的問題の解明に直結することを見据えている点が高く評価された。

吉満氏の研究計画は、関連論理の自然な意味論を構築することを目標とし、特に、従来の可能世界意味論等に代わる、より優れた意味論を提示するには、存在論のレベルにまで掘り下げた分析が必要であると指摘する。このアイデアは重要性も高く興味深いと評価されたが、ただし「存在論」と呼ばれるものの内容がいまだ漠然としすぎているのではないか、という疑問も寄せられた。

以上の通り、採用された3件は、それぞれの分野の現在の研究水準に照らして十分独創的で質の高いものと評価できる。また次点の1件も、その興味深さでは何ら劣らず、今回は次点とするものの、より具体性を増した計画案が再提出されれば、高く評価しうるものと考ええる。

選に漏れた6件についてはいずれも、計画内容に十分なまとまりがない、審査員を十分説得できるだけの説明が展開されていない、といった難点が指摘されたことを付言しておく。

* 2008年度の若手研究助成募集について

来年度の若手研究助成公募受付は、2007年12月1日～2007年12月20日を予定しています。

応募用紙(11月中旬に公開予定)に所定の事項を記入し、電子メールの場合は添付ファイルにて、郵送の場合は事務局宛にお送り下さい。正式な募集開始のお知らせ、応募方法等の詳細は、11月中旬よりホームページ上に公開します。

2. 石本基金出版助成について

出版助成開始にあたって

石本基金運営委員長 野本和幸

既に大会時やニュースレターでお知らせ致しました通り、故石本新会員のご遺族より、学会の発展・研究の進展のため、多額のご寄付を頂きました。そこで貴重なご遺志に応えるべく、基金運営委員会を設置し、学会賞選考作業部会、若手研究者研究助成作業部会を中心に、学会賞、若手研究者研究助成を、既に実施に移してまいりました。そうした中懸案の中堅研究者の出版助成について基金運営委員会内に出版助成作業部会を設置し、石垣寿郎部会長を中心に成案に至るべく鋭意検討を重ねてまいりましたが、このほどようやく公募に踏み切る段階に至りました。つきましては、下記の要領で、出版助成の公募に入りたく存じます。とくに中堅研究者におかれましては、高度の専門的著作を公表されるべく、奮ってご応募下さるよう、お願い申し上げます。

(なお、これまでの学会員による論理・数学・言語の哲学、科学哲学に関する既発表論文の中から精選して、2冊のアンソロジーを編集・刊行することも決定し、既にその1冊目は石本氏の研究領域と関連する『分析哲学の誕生——論理思想の革命(フレーゲ・ラッセル)』として、近々に公刊の予定になっております。)

第1回 石本基金出版助成公募開始のお知らせ

「出版助成」作業部会長 石垣壽郎

昨年度より石本基金事業の一部門として周知しておりました「会員出版助成」について、第1回公募を今冬より開始することになりましたので、ここにご報告いたします。

この事業は、広義の科学哲学分野の堅実な基礎研究の発展に資するべく、この分野の研究への有意義な貢献をなし、研究水準を高めると評価しうる著作の出版助成を行うことを趣旨とします。特に、商業的な出版ルートに乗りにくくとも学術的に資するところの多い著作を優先して刊行します。

応募条件は基本的に以下ようになります。なお詳細は、11月中旬に公開する公募要項をご確認ください。

1. 助成の対象は会員に限る。
2. 石本氏の研究領域も勘案しつつ、「科学哲学および関連諸領域に関する研究の推進」（本会会則第3条「本会の目的」）に資する、著作であること。
3. 内容的な水準はいわゆる論文博士程度。扱われている主題に通暁している専門家により、ほぼこのレベルに達していると判断されるもの。
4. 助成金額は原則として各年度1件、100万～200万円程度。
5. 刊行が決定した著作については石本基金の出版助成を受けた旨を明記する。〔文部科学省、学術振興会等の出版助成が得られた場合には、石本基金からの出版助成を辞退する。また初版一刷の印税は基金に還元する。〕

第1回公募受付期間は2007年12月20日～2008年1月20日の予定です。その際の提出物は以下になります。

- ① 著作完成原稿全文（ただしその後の審査の進展過程で手直しを要求される場合もある）とその複写、計2部
- ② 2000～4000字程度の概要
- ③ 履歴書

*一次審査を通過した著作のみ、二次審査に入った段階で出版社の見積書をご提出いただきます。正式な公募要項及び応募書式は11月中旬よりホームページ上にて公開します。

〒192-0397 首都大学東京大学院 人文科学研究科 哲学教室内
日本科学哲学会事務局

fax. 042-677-2073（「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。）

e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>